



◆清水由美子 議員

夏休み明けの子供達の様子は

教育長 調査を継続し、支援を続ける

短い夏休みと、酷暑の8月を過ごし、学校に登校する子供たち。コロナ禍によるストレスの把握と不安、悩みの対策を問う。

問 夏休み明けの子供の様子は

答 欠席も少なく、落ち着いて授業に取り組んでいる。今のところ、コロナ禍によるストレスが表面化している、あまり感じられない。

問 学習については

答 45分授業を15または20分で区切り、徐々に慣れる工夫をした。2か月に及ぶ臨時休業の学習内容の遅れは、短期間で取り戻すのではなく、計画的に授業を実施する。

問 具体的な支援と対策は

答 「心のアンケート」やいじめ調査を継続し、状況把握と丁寧な相談や支援を行う。学校生活を充実できるよう、運動会の代替の会（スポーツフェスティバル等）を計画。修学旅行、宿泊研修も日帰り代替案を作成。ストレスに対しては、個人懇談や保護者面談等を適宜実施して、コロナ禍・学習・生活習慣それぞれの不安や悩み個別支援をしていく。



中学生 生活アンケート

町教育主要施策の進捗状況は

教育長 マップは今年度中に全世帯配布

令和2年度の町教育施策―健康で元気で年を重ねる「生涯スポーツ」と子育て支援「留守家庭児童教室事業」の内容・進捗を問う。

問 ウォーキングマップの進捗状況は

答 養老町には現在2つのウォーキングコースが設置されている。「親孝行の養老の滝へ続く道」コースは、役場を起点とし、養老公園までの約10kmコース。「新日本歩道道紀行100選森の道」に認定されている。「養老公園観光」コースは、養老駅を起点・終点として、養老公園内の見所を巡る約5kmコース。現在は、町内11地区にコース案を作成。地域の歴史・文化等を活かし、2〜5kmの範囲で設定。安全等の現地確認まで終了した。今年度中に全世帯へ配布予定。

問 6年生まで受け入れとなった留守家庭児童教室の様子は

答 夏休み期間234名のうち、5年生6名、6年生2名だった。今年夏休み期間が短かった事と、利用された8名が過去に留守家庭児童教室の利用経験があり、大きなトラブルもなく、落ち着いた生活となった。



養老公園観光ウォーキングマップ

産前産後ケア事業の充実を

町長 ニーズの必要性を調査・研究



◆水谷久美子 議員

町の合計特殊出生率は、国県の平均に満たず、更なる産前産後ケアの充実が求められる。

問 流産などの経験者を心理的にケアする支援体制の確立を求める。

答 本人の同意のもとで、保健所から保健センターにも情報提供があり、保健師が相談支援を行っている。

問 妊娠中や出産後の母親を支援するヘルパー派遣事業の創設を求める。

答 今後、事業の必要性について、調査・研究していく。

問 働きながら出産を迎える妊婦へ、母子手帳「母性健康管理指導事項連絡カード」の積極的な活用を促したい。

答 本人の同意のもとで、保健所から保健センターにも情報提供があり、保健師が相談支援を行っている。

問 町の本年、上半期の出生数や前年度との増減率は

答 出産数は、44人で前年同期8人減の15・4%減である。

問 母子手帳交付時などに妊娠後も安心して就労できるような積極的な活用を促したい。

答 母子手帳交付時などに妊娠後も安心して就労できるような積極的な活用を促したい。



コロナ禍の元「ようろうっこ」になりました

学校再開後の課題認識は

教育長 速やかな情報提供に努力する

学校再開後、学校現場でも「新しい生活様式」が求められる教員やPTA・児童・地域が丸となり学校生活が営まれている。

問 学校再開から小・中学校の救急搬送の実態と原因は

答 学校管理下の事例は3件で交通事故によるもの。(全国的な熱中症による集団搬送の例はない。)

問 感覚過敏症の児童・生徒・教員へのマスク対応の配慮を求めたい。

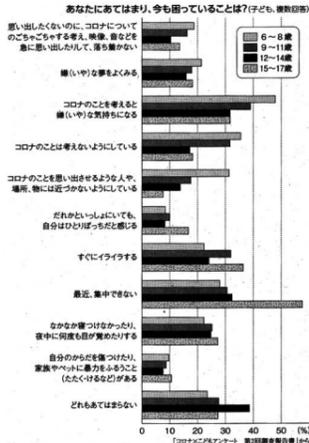
答 現時点で感覚過敏症による非着用報告はない。マスク着用でストレスを感じる児童生徒には、保護者と相談し柔軟な対応を指導したい。

問 学習の遅れへの対策や保護者や児童生徒への周知は

答 年度の間点を迎える今の時期に周知を一層図りたい。今後も県からの速やかな情報提供に努める。

問 学校調理室にエアコンの設置を求めたい。国の三次補正の対象事業であれば優先されたい。

答 学校調理室にエアコンの設置を求めたい。国の三次補正の対象事業であれば優先されたい。



国立成育医療研究センター「コロナ×子どもアンケート」より

ほかに「コロナ差別防止条例制定について」の質問もしました。